

No.148

2017.10.25

朋友だより

朋友だより148号をお届けします。

カナダの文筆家、ナオミ・クラインの新書を紹介します。

気候変動が待ったなしの状況にあることがわかります。このまま進めば、今世紀末には人類の生存は保証されないとされています。生き残りのために、人類の英知が問われています。

2017年10月

(有)コンサルタント朋友
代表取締役 奥長弘三



『これがすべてを変える』を読む



今、ここにある危機

『これがすべてを変える—資本主義 VS 気候変動—上・下』(ナオミ・クライン著 幾島幸子・荒井雅子訳 岩波書店 2017年8月)を読みました。前著『ショック・ドクトリン』に次ぐ、全624頁の大著です。

本書は 97%の科学者が認めている気候変動という事象がまさに「今、ここにある、危機だ」という認識に立った上で、この気候変動が現在、まったなしの段階に突入していると言います。

1992年のリオ地球サミットでは、世界各国が問題意識を共有しました。そのあと世界が足並みを揃えて対策に取り組めば、時間的余裕もあり、じっくりやれたはずですが、その後、グローバル化と自由市場原理主義の波が全世界を覆い、政府が産業界に規制をかけて、温室効果ガスの排出を削減することが、きわめて困難な時代が20年以上続いてしまいます。

その為、壊滅的な気候変動を回避するために残された時間は、あとわずかしか残されていません。

さて、どうするかが課題です。以下、出来るだけ本文に則りながら、著者の主張を紹介します。

このまま進めば破滅しかない

世界銀行も報告書の中でこう指摘する。「このまま行くと、世紀の終わりまでに世界の温度は今より 4℃上昇するだろう。そうなれば激しい熱波が襲い、世界の食糧備蓄は減少し、生態系や生物多様性は損なわれ、海面上昇によって生命が脅かされる」そして、「4℃の気温上昇に適応できる保証はない」とも警告している。(本書 P.17)

事態はこれ以上明白になりようがないところまできている。それでも大多数の人々は、危機感をもって進路を変えるために全力を尽くすのではなく、分かっているながら、

今までと同じ道を進み続けている。私たちはいったいどうしてしまったのか。(P.20)

私たちが排出量削減に必要なことをしてこなかったのは、それが規制緩和型資本主義——気候変動の危機から脱する道が探されてきた全期間を通じて、世界を支配してきたイデオロギー——と根本的に相容れないものだったからだ。

破局を回避する可能性を最大限にもたらし、ひいては圧倒的多数の人々の利益になる行動が、経済や政治のプロセス、そして大手メディアの殆どを牛耳る少数のエリートにとって、きわめて大きな脅威であるために、動きがとれないのである。(P.24)

問題の核心は、この時期に市場原理が、人々の生活を完全に支配したことによって、気候変動に対する最も直接的で、当然の対応が政治的に異端なもののように見えたことだ。(P.26)

私たちは、厳しい選択を迫られている。気候崩壊を招いてこの世界のすべてを変えてしまうか、それともその運命を回避するために、現在の経済システムの殆ど全てを変えるのか。(P.28)

この問いかけが、本書のタイトルとなっています。そして本書が提案する戦略は、下記の様なものです。

大きく考え、深く行動し、思想の軸を惑星地球の健康にとって最大の敵となった抑圧的な市場原理主義から遠く離れたところへ動かすということだ。(P.35)

市場原理主義をわれわれの地球の健康にとって最大の敵と批判する著者の姿勢に注目します。そして成長神話にがんじがらめになった資本主義のシステムとそれを支えているイデオロギーを根底から変える以外に方法はないと主張します。



化石燃料は地中にとどめおくべき

在来型の石油や天然ガスに比べ、オイルサンドははるかに大量のCO₂を、フラッキングは一層大量のメタンを排出する。破局的な温暖化を防ぐには、CO₂を地中にとどめ、CO₂を吸収する太古の森を、鉱山開発による伐採から守ることが不可欠だという理解が深まっている。(P.409)

この危機を真に解決する前に、まずすべきなのは「これ以上悪くしない」ことだという基本原則がここには表現されている。「何十年にもわたって危険な排出レベルを「固定」してしまう新規の化石燃料インフラ建設への大規模かつ長期的な投資は、絶対にやめなければならない。穴から脱出するための第一歩、それは掘るのをやめることだ」(中略) 抵抗地帯が断固として掲げるのは「地下にあるものはいっさい使わない」とでもいうべき考え方だ。それが拠って立つのは、地底から毒物を掘り出すのはやめて、地表で豊富に得られるエネルギーを活用する生活へと全速力で転換する時が来た、というシンプルな原則である。(P.410)

最近、各地で開発が進められているオイルサンド原油やフラッキングは在来型の石油や天然ガスに比べ、温暖化に与える負荷が格段に大きいことが指摘されています。化石燃料を地中にとどめおくべきだという知見は、気候変動と闘うなかで得られた人類の知恵と考えられます。

新しい経済をつくる

従来の資本主義から転換したあとの、新しい経済が展望されます。自然との共存をめざす、循環型の相互的なシステムが持続可能な社会として追求されます。

今日の気候変動阻止運動には、単に「ノー」と言うだけの贅沢は許されず、同時に社会変革をめざす「イエス」のために闘わなければならない。それは環境にやさしい良質の雇用と避けがたい喪失に苦しめられている人々の苦境を和らげる社会的なセーフティネットを提供することのできる、次なる新しい経済をつくる基礎を築くことに

ほかならない。(P.536)

各地のコミュニティが単なる採取/搾取主義への抵抗から、その後立ち現れるべき世界の構築へと軸足を移すなか、パーマカルチャー(持続可能な環境をつくり出すデザイン概念)や、「生きたビル」、雨水利用など、急速に増加しつつあるモデルの中心を占めているのが、生殖サイクルの保護である。採掘という一方通行の直線的な関係に代わって、循環型の相互的なシステムがあちこちで創られつつある。種子は買わずに、採取保存する。水をリサイクルする。化学物質ではなく動物の糞尿を肥料にする、などなど。絶対的な決まった手法はない。地理は各地で異なるというのが原則であり、「ゲニウス・ロキ(土地の精霊)に訊け」、すなわちその土地に適した方法を採用することが重要なのだ。(P.597)

新しい経済の一端が紹介されています。絶対的な決まった方法ではなく、それぞれの土地、地域に適した方法が追求されるでしょう。

本書でクラインが最も訴えたかったのは、気候変動という人類にとっての危機が、大きな歴史的なチャンスだということに尽きる。破滅的な気候変動を回避するためには、もはや政府の介入によって規制を強化し、化石燃料に基づく中央集権的な経済から、地方分散型の再生可能エネルギーに基づく経済へと移行する以外に方法はない。そしてそれは同時に人々の生活の質を向上させ、国内の経済格差、南北の格差を是正をもたらし、より公正な経済と民主主義の活性化を実現するという、一石二鳥にも三鳥にもなる結果を生むというのである。(P.627 あとがき)

新自由主義の成長神話から脱皮する以外に人類が生き残る道はないと主張されています。そしてその新しい道は格差がなく、そこで暮らす人々の生活の質が向上し、人間らしい生活を楽しむことが出来ると展望しています。



株式会社 エニー

(神奈川県横浜市：代表取締役 佐々木 雅一 氏)

創業 20 年になる汎用機のシステム開発を中心に事業を展開しているソフト開発の会社です。社員数 18 名。金融に特化したソフトウェア開発を最も得意とするところでは。

一方、自社製品の開発にも力を入れており、勤怠システム管理、マッサージ・鍼灸治療院向け売上管理 (Taccel) などの自社販売用ソフトを持っています。

この会社は実にユニークな新人教育を行っています。新入社員は情報処理の学校を卒業した人達ですが、教育の修了課題として一年かけてプログラム開発を行い、その成果を展示会への出品という形で外部発信するというものです。テーマは当初経営陣が指示していましたが、現在ではテーマからパンフレット、出展のディスプレイに至るまで定例の社員ミーティングで決めています。この様にして開発されたものが、金融とは全く別業種の自社販売用ソフトに発展しています。

また会社の姿勢として、単にプログラムを組むだけでなく、顧客の業務に精通することを重視し、「業務スキルのエニー」として役立つことを目指しています。

顧客の声に耳を傾け、しかし媚びることなく、自分達の言うべきことはきちんと伝えるのが同社の方針です。

今年の 6 月には神奈川県知事から経営革新計画の承認を受けています。

経営理念

1. すべての人が社会貢献できる場を創出する。
 <人間性：行動基準>
2. 社会の進歩がすべての人に公平にやさしく受入れられる手助けをします。
 <社会性：外に対する基本姿勢>
3. 社会の発展のため先進的技術・技法を研究、開発するための努力をします。
 <科学性：内に対する基本姿勢>

お問い合わせ：株式会社 エニー

〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸 2 丁目 1-22 ナガオカビル 5F

TEL. 045-548-3423 FAX. 0445-548-3424

<https://www.any-jp.com>

～*～*～ あとがき ～*～*～*～*～*～*～*～*～*～*～*～*～*～*～*～*～*～*～*～

朋友だより 148 号をお届けいたします。

「71 年前、雲一つない明るい朝、空から死が落ちてきて、世界が変わった」(共同通信社記) は 2016 年 6 月オバマ氏が現職米国大統領として初の広島訪問時でのスピーチでした。私もいつかはと思っていたのですが、やっと念願が叶い広島へ行ってきました。原爆資料館に入ってすぐに、当時の街並みから投下直後の殺戮と破壊をもたらした姿へ一挙に変化したビジョンの前に立ったとき、確かに、私も 72 年前を体験したように足がすくみ、体に痛みが走ったように感じました。ICAN (核兵器廃絶国際キャンペーン) が今年のノーベル平和賞を受賞しました。条約で核兵器を禁止しようという「画期的な努力」が受賞理由だとの事です。でも依然唯一の戦争被爆国の政府は、この評価にも背を向けています。(野上)



朋友

有限会社 コンサルタント朋友

〒113-0022 東京都文京区千駄木 3-36-11

千駄木センチュリー21 602号

TEL. 03-5815-3021 FAX. 03-5815-3022

e-mail foryou91@tokyo.email.ne.jp

URL:<http://www.consultant-hoyu.co.jp>

